

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171000211		
法人名	有限会社 都紀		
事業所名	立野 紀水苑		
所在地	佐賀郡東与賀町大字下古賀字一本杉60番3号 (電 話) 0952-45-7281		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月17日	評価確定日	平成 20年5月13日

## 【情報提供票より】(平成 20年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人(専任4名・兼任1名), 非常勤 7 人, 常勤換算 5.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	造り	木造瓦葺 平屋建て
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

### (4) 利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	69 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	諸隈病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境に立地して、ゆったりとした敷地内に立てられている。近隣とは農作物を交換するやり取りや、牛舎の見学に行くなど自然や動物を通じたやり取りをされている。室内は、日光が十分に調整されていて明るく、ソファやコタツを配置した共用空間を中心に、入居者が自由に過ごせるようにされている。日々家庭的な雰囲気をベースとし、「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」をモットーとした生活が送られるように取り組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を参考にし、職員一同で改善点を話し合い、改善に取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題を取り入れながら職員やケアマネジャーと共に話し合い取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>民生委員や地域の住民に苑の方針や内容について随時説明を行っている。今後、さらに地域の様々な方々の協力・支援を得られるように声かけをされ、運営についての協力を求めていく取り組みを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に苦情箱を設置し、苦情担当を設けている。また、家族の方が話す機会をできるだけ取っていただけるよう、個人的に連絡を行ない、それらを運営に反映するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>空き缶拾いに参加するなど、地域住民となじみの関係を作れるように取り組んでいる。また、地域の方々から野菜をいただいたりするなどの交流がある。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しく」の基本理念をより具体的なものとして掲げ、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を新たに掲げる際に、ミーティングをおこなっている。又、リビング・玄関・事務所の3箇所に理念を掲示し、職員一同日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の清掃活動やごみ拾いに参加するなどして、地元の人々と交流することに努めている。	○	さらに、地域の様々な分野の方々からの協力・支援を得て地域活動に参加されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題を取り入れながら職員やケアマネジャーと共に話し合い取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地区の方々への呼びかけを行い積極的に参加していただけるよう取り組んでいる。運営方針や状況について報告や話し合いを重ねている。	○	さらに、地域の様々な分野の方々の協力・支援を得られるように声かけをし、老人会・民生委員の運営推進会議等への積極的参加がされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括支援センター等には全般的に相談をおこなっている。また、職員の勉強会等の講師をお願いしサービスの質の向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議での議事録を定期的に発送している。また、電話にて随時利用者の生活状況がわかるように連絡をしている。金銭の管理に関しては毎月確認を行い家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、苦情担当を設けている。また、家族の方が話す機会をできるだけ取っていただけるよう、個人的に連絡を行ない、それらを運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動や離職に対しては、その都度、入居者の不安を軽減する配慮を行っている。例えば同じ法人内の異動の場合、職員と触れ合える機会を多く作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員・管理者と共に入居者のケアについてその都度話し合いを行い、内部の研修を受ける機会をこまめに確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズグループホーム同士の交流研修や、同業者との交流に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず体験入居を行っている。ホームの雰囲気等を見ていただけるように本人・家族に利用していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人に寄り添いながら、家族同様の気持ちと一緒に生活をしている。また、入居者の反応を見ながら、支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や表情、また、本人や家族からの生活歴等の情報から、本人の意向を把握し、生活のペースや好みに合わせるような配慮を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員とケアマネジャーが協議しながら、計画作成にあたるようにしている。	○	サービス担当者会議録等の書類を整備し、今後の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフミーティングを2週に1回行っているが、入居者の状況に変化があれば期間を待たずに、その都度話し合いを行い各関係者と共に現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況、その都度の要望にあわせた支援を行っている。例えば、外泊の要望に対しては速やかに対応し、その費用等についても柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の希望する医療機関があれば、継続して受診できるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書の中に入居者が重度化した場合や、終末期の方針を明示し、説明し同意を得ている。ターミナルケアの対応マニュアルを活用し、法人内で協力を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方には、誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けにならないように、対応に関して気をつけている。また、個人情報の取り扱いについては常に細心の注意を払うようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースを最優先とし、本人に合った時間を設け、本人のペースに合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一人ずつ好みに応じて選択できるように献立を決めたりしている。	○	入居者の状況を見ながら、一緒に準備したり、自分でできる配膳や食器洗い、テーブル拭き等をできるように今後の取り組みを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の午後の時間帯で希望の時間で対応している。夕方の時間帯の入浴を楽しめるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴から、生け花や畑、花壇のお世話をできるよう支援をしている。また、それらを通じて、話題を見つけることにより、入居者間の楽しみを見つけ出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、近隣の散歩や、畑、花壇の世話、買い物等ができるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人や家族がいつでも出入りできるように、玄関は開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて、地域の消防団への依頼・消防署による消火・避難訓練等を行っている。近隣との共同の訓練も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の摂食量・排泄量を記録し、入居者の状況に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の集まるホールは、日当たりが良く、音や光を入居者に合わせて調節している。又、張り紙や色紙などで四季折々の作品を掲示し、季節感を感じられるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には、箸や茶碗などなじみのものを使っただき、安心して過ごされるよう配慮されている。また、自分の居室がわかりやすいように、表札を付けられている。		